



P O B
T F O
L I O

ブン セイ
文 誠



中国から参りました文誠と申します。
高校卒業後は美術生として大学に入学しプロダクトデザインを学ぶ。デザインの意味を探るために大学時代に様々な業界を試し、自分のカフェを開設し、同時に日本語を独学した。
大学卒業後は両親の影響でカフェを経営しながら不動産金融関係の仕事をしていたことがきっかけで建築に触れた。
コロナ禍の時期に先輩の勧めで建築雑誌を読み始め、関連書籍を読み進めるうちに日本で建築設計を学ぶことにした。

生い立ち

1997年 中国湖北省荊州に生まれる
2015年 湖北湖北工業大学入学
2018年 武漢でカフェがオープン
2020年 会社を創業する
2023年 建築デザインを学ぶ為来日

自己PR

出身 中国荊州
誕生日 1997年10月23日
年齢 26歳

基本スキル

・ Vectorworks ・ Rhinoceros ・ Photoshop ・ Grasshopper

趣味・特技

・ スノーボード ・ コーヒー作る ・ 剣道 ・ 撮影

Contents

- ・ 中銀カプセルタワー改造計画
- ・ 三つ空間があるカフェ
- ・ 結びの幼稚園 (continuing)
- ・ Other

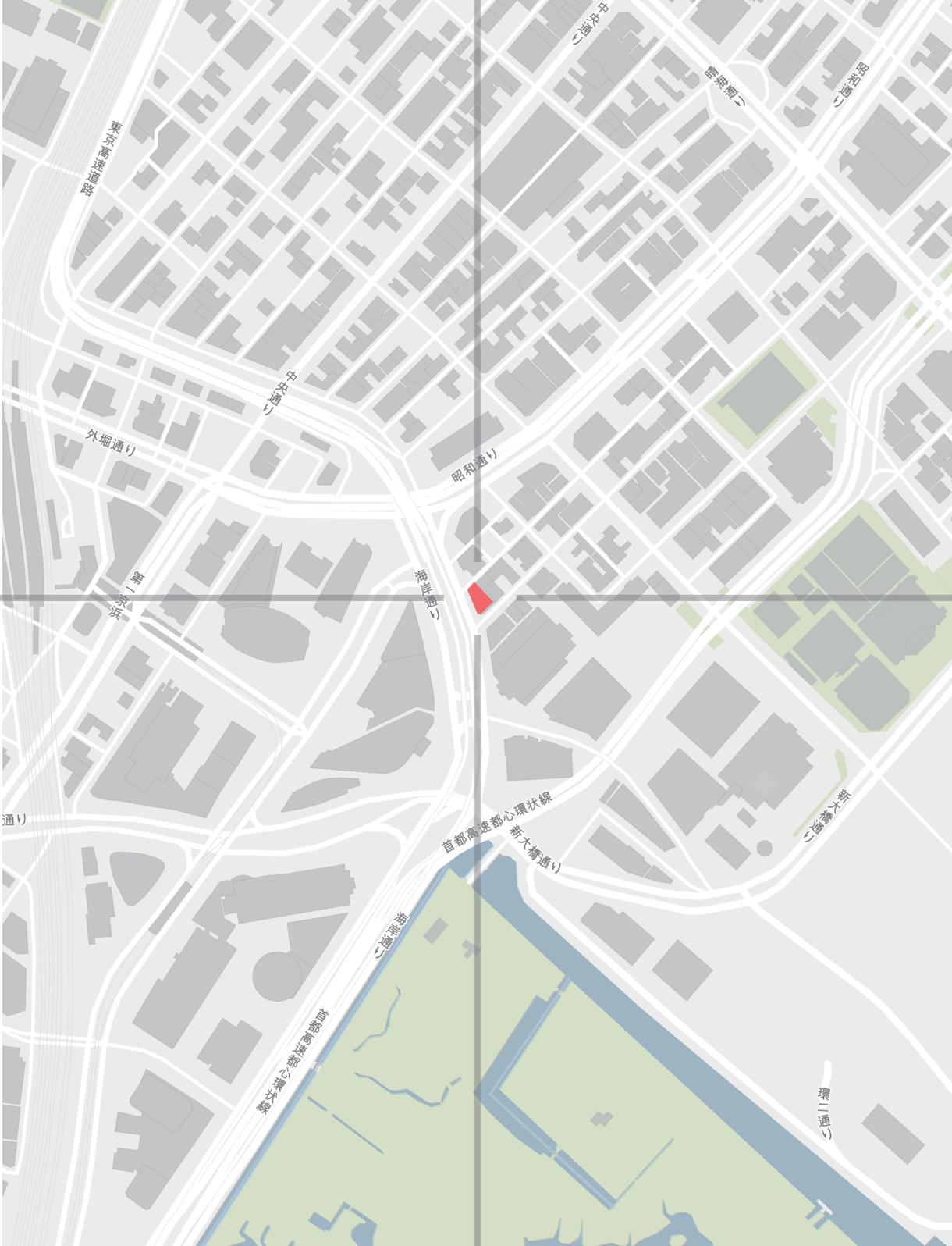
TOKAI CYU

都会中の山居



NO SANKYO

中銀カプセルタワー改造計画



敷地面積：450平方メートルくらい
場所：東京. 中央区. 銀座

中銀カプセルタワーはにぎやかな銀座の近くにある。最初は「24時間都市」を通じて、夜遅くサラリーマンに住居を提供したいと思っている。今はもう計画を離れました。もっと多様な人々に異なる需要を満たす。



近くの歌舞伎座は歴史の古い銀座歌舞伎専用劇場として、現在は国家文化遺産となっており、周辺に多くの観光客が集まる。

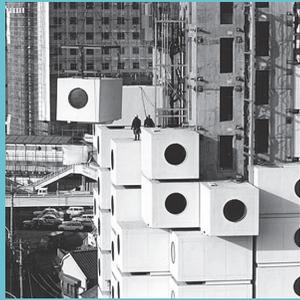
銀座はずっと東京の一番にぎやかな商業センターの一つです。このいろいろなサラリーマンと観光客でいっぱいです。



一番近い駅は新橋駅で、銀座の範囲内でも非常ににぎやかな駅です。4つの路線がここを通る。



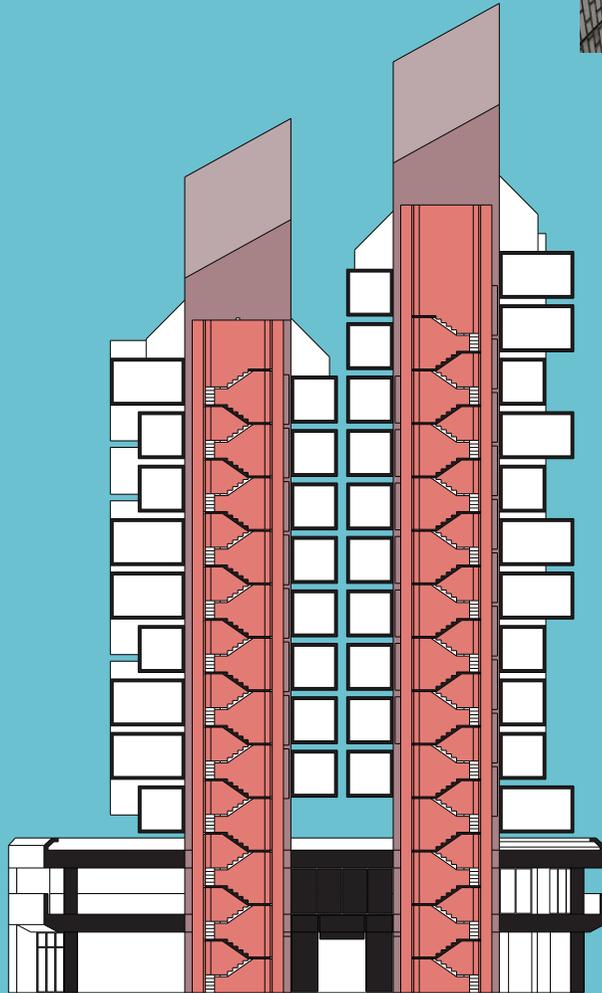
一・時代背景…
戦後の経済回復は人々の
財産と科学技術を新たな
高度に到達させました。



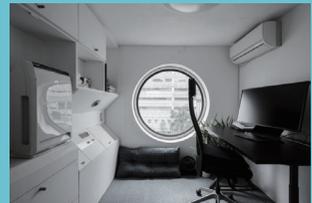
三・中銀カプセルタワービル…
「建物でも新陳代謝ができます」という
イデオロギーのもとに誕生しました。タ
ワー内のカプセルルームは独立しており、
取り外しができ、組み立てができるのが
最大の特徴です。



二・立体都市計画…
1960年代は工業時代から
情報時代へ変わった時期で、
メタボリズムは技術を通じて
この変化に対応したい
と考えている。

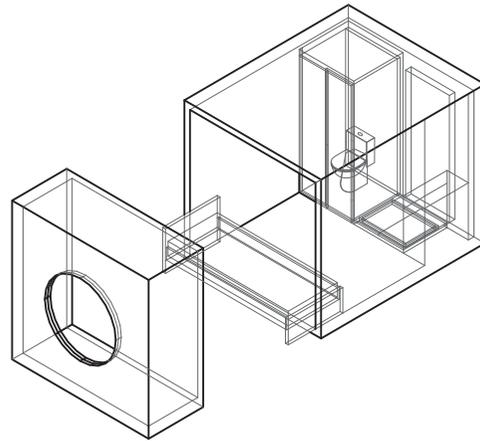


四・カプセルの現状
定期的に更新されたカ
プセルは様々な理由で
実装されていませんで
したが、一部のカプセ
ルは使えなくなりました。

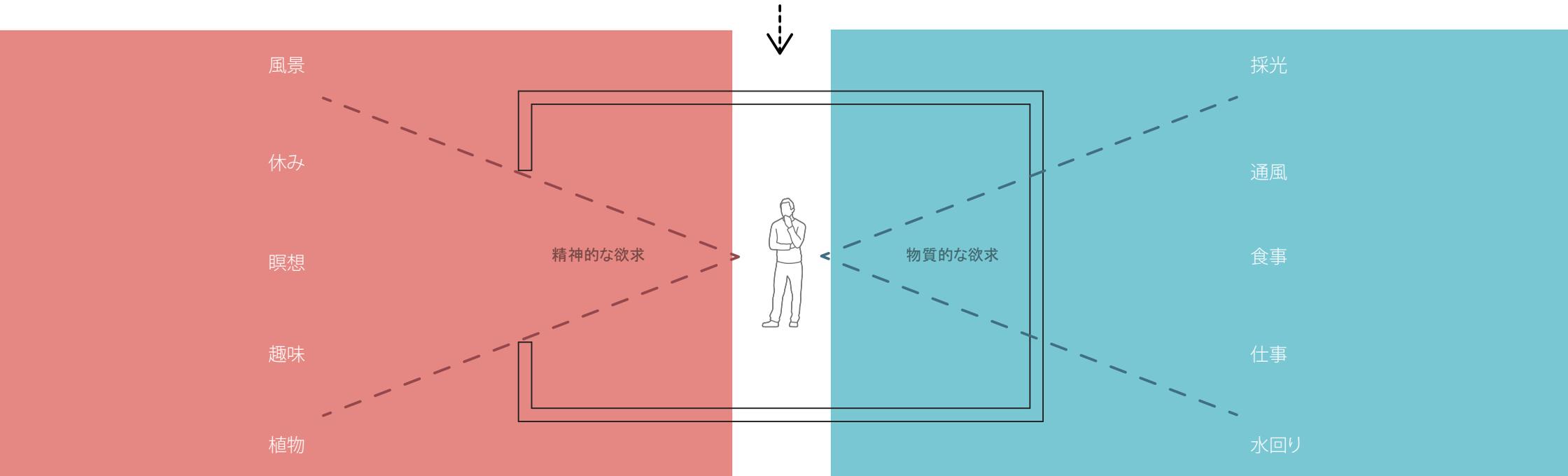


今も使用中のカプセルは、最初の夜
遅くまで働くサラリーマンに提供さ
れた住居からは遠いところにあり、
多くの人が1人で過ごす空間を提供
する都市の山居となっている。

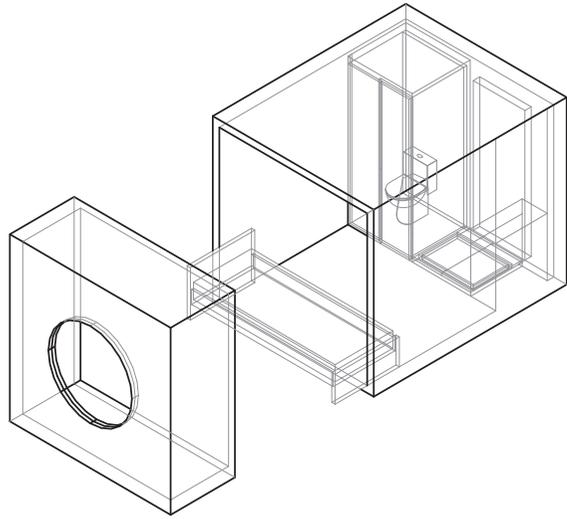
コンセプト



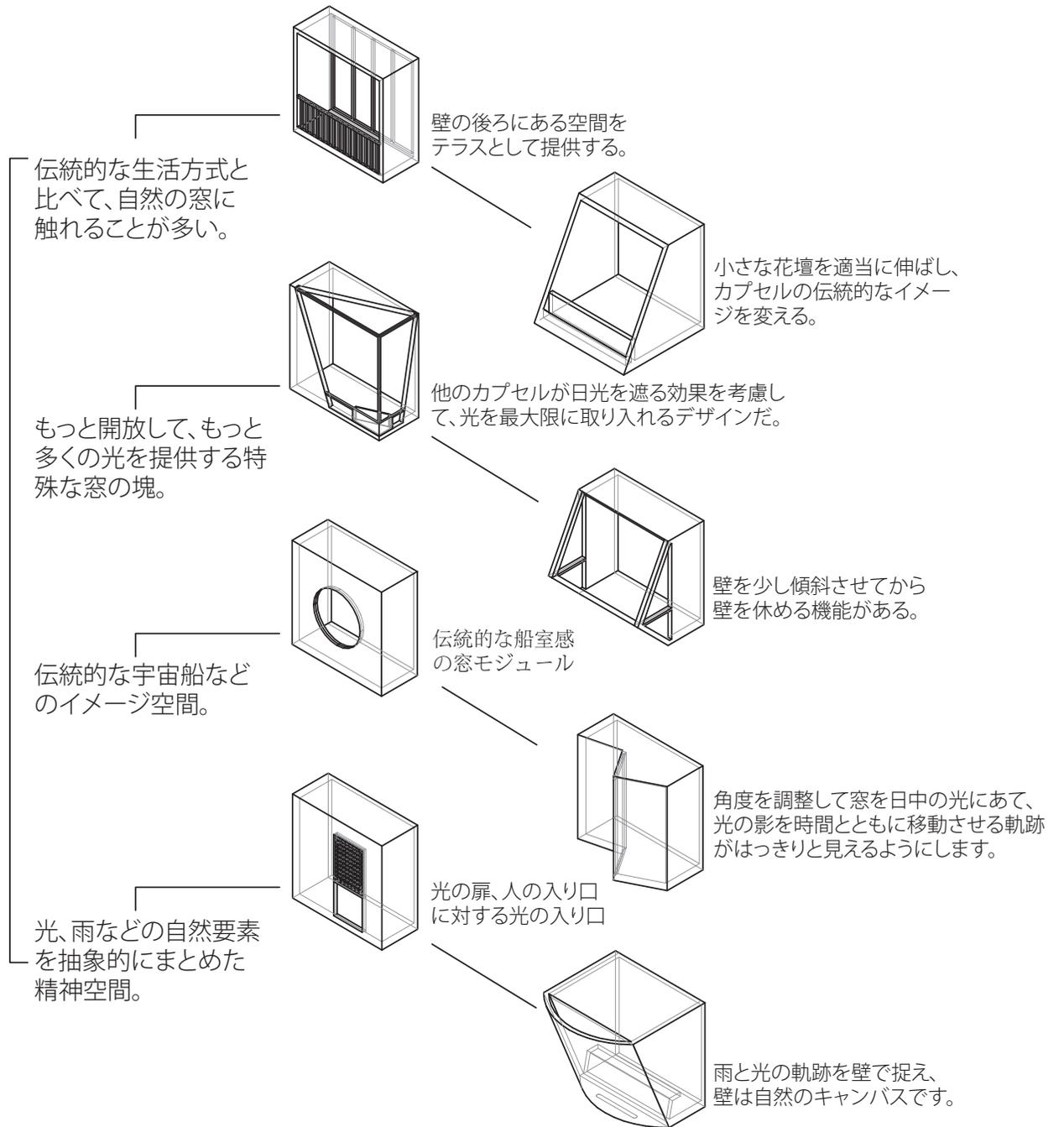
カプセルを二つ状態の空間に分ける

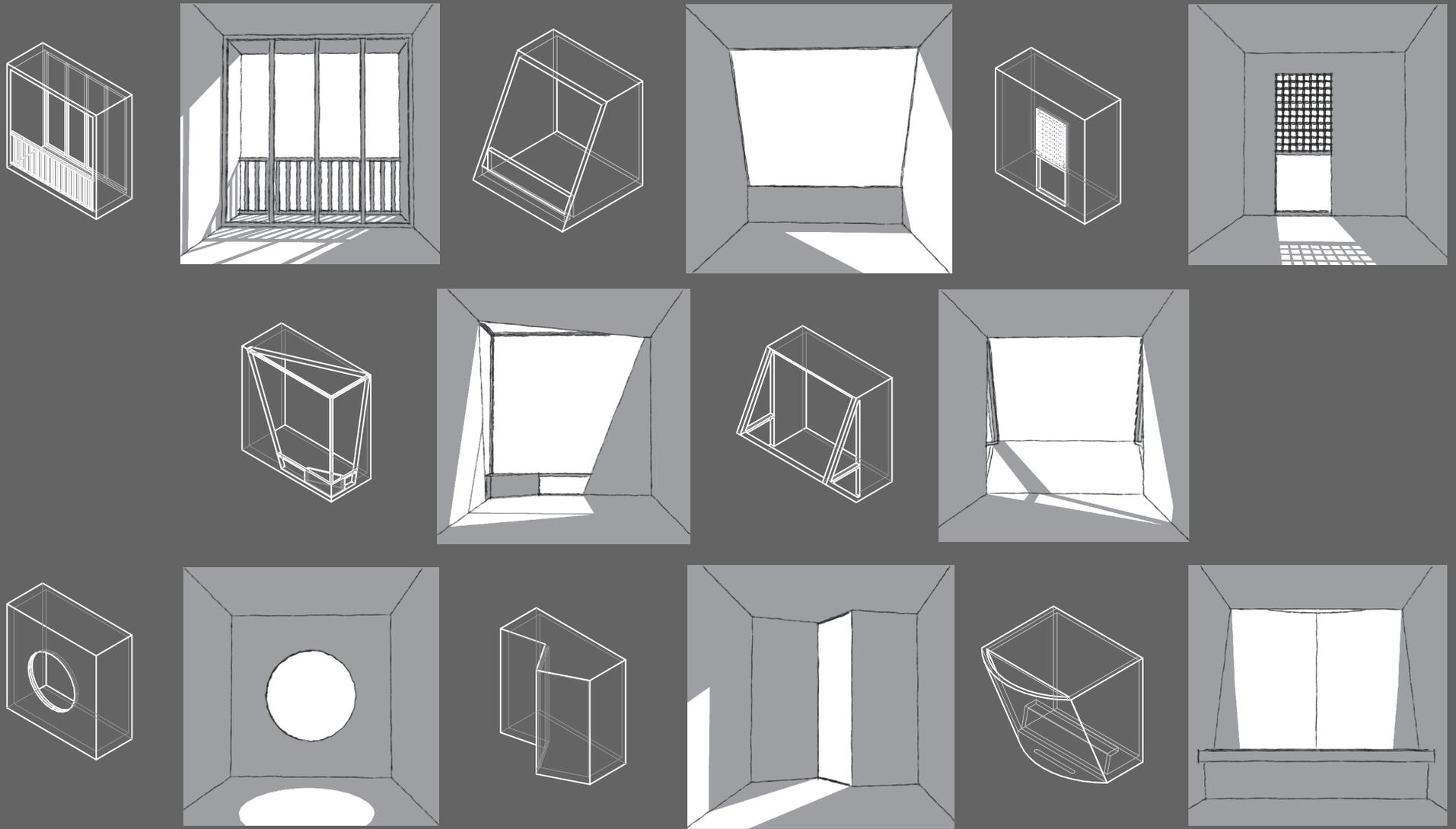


各カプセルは独立して建物に浮遊しています。
各カプセルは使用者の心の世界を表していると思う。
風景と日照は窓一つでカプセルに入るので、
窓の形が変わるにつれて空間の開放度と状態も変わってくる。



本来のカプセルの空間形式は単一で、住民の様々な実用的な需要を満たすことができません。今の都市住民の生活方式によって、いくつかのタイプのカプセルスペースプラグインが設計された。

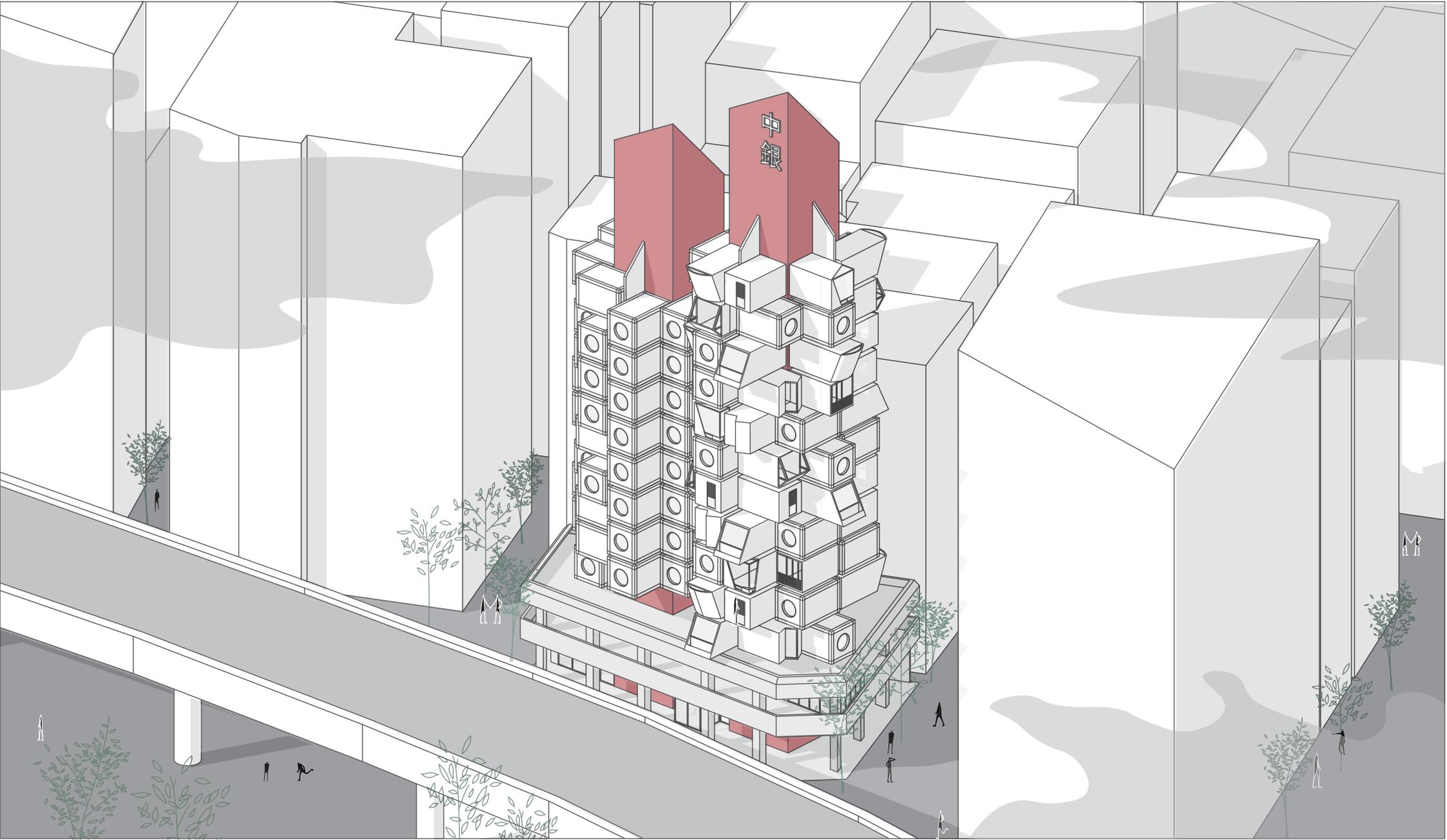




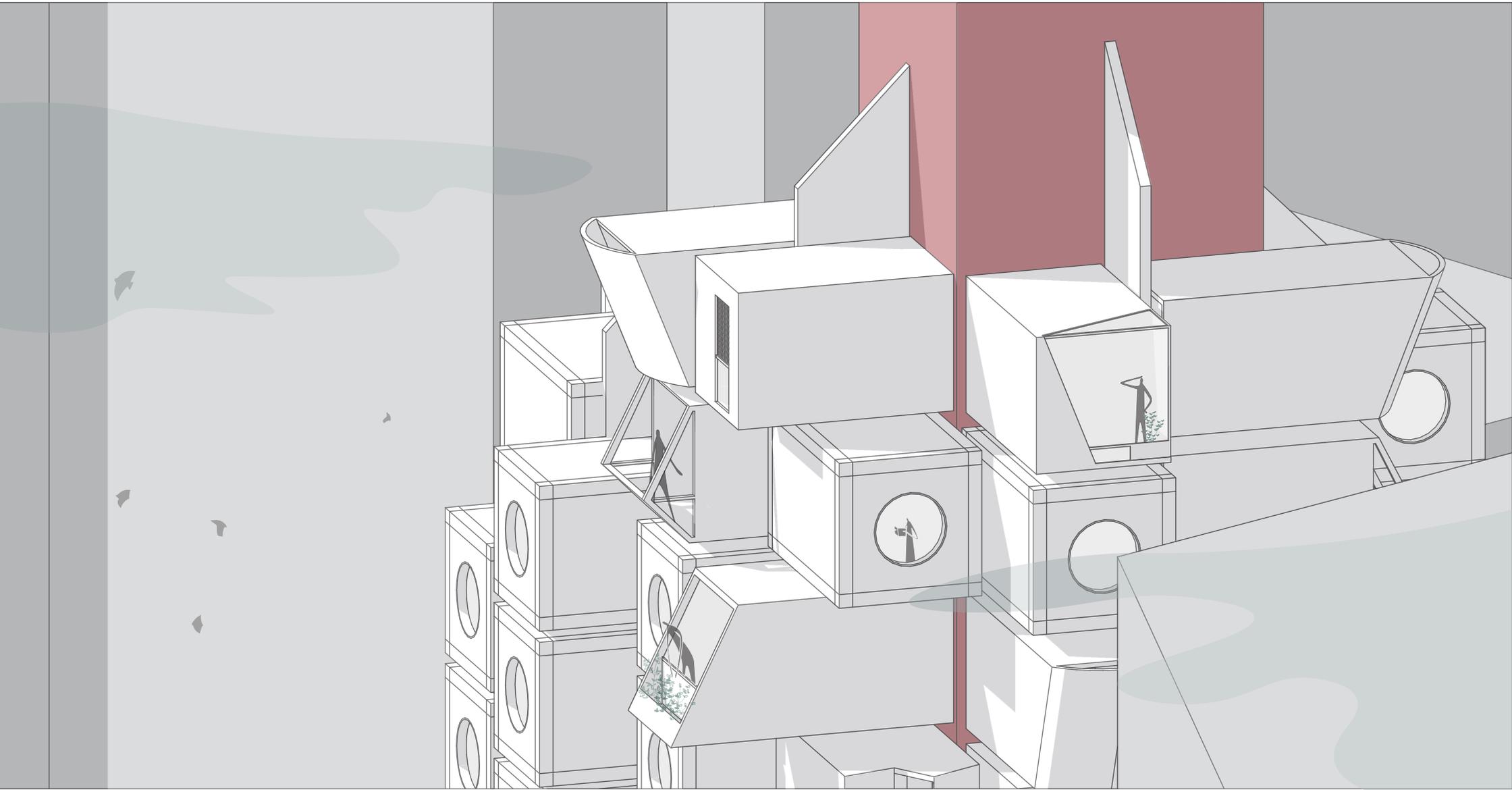
窓と影

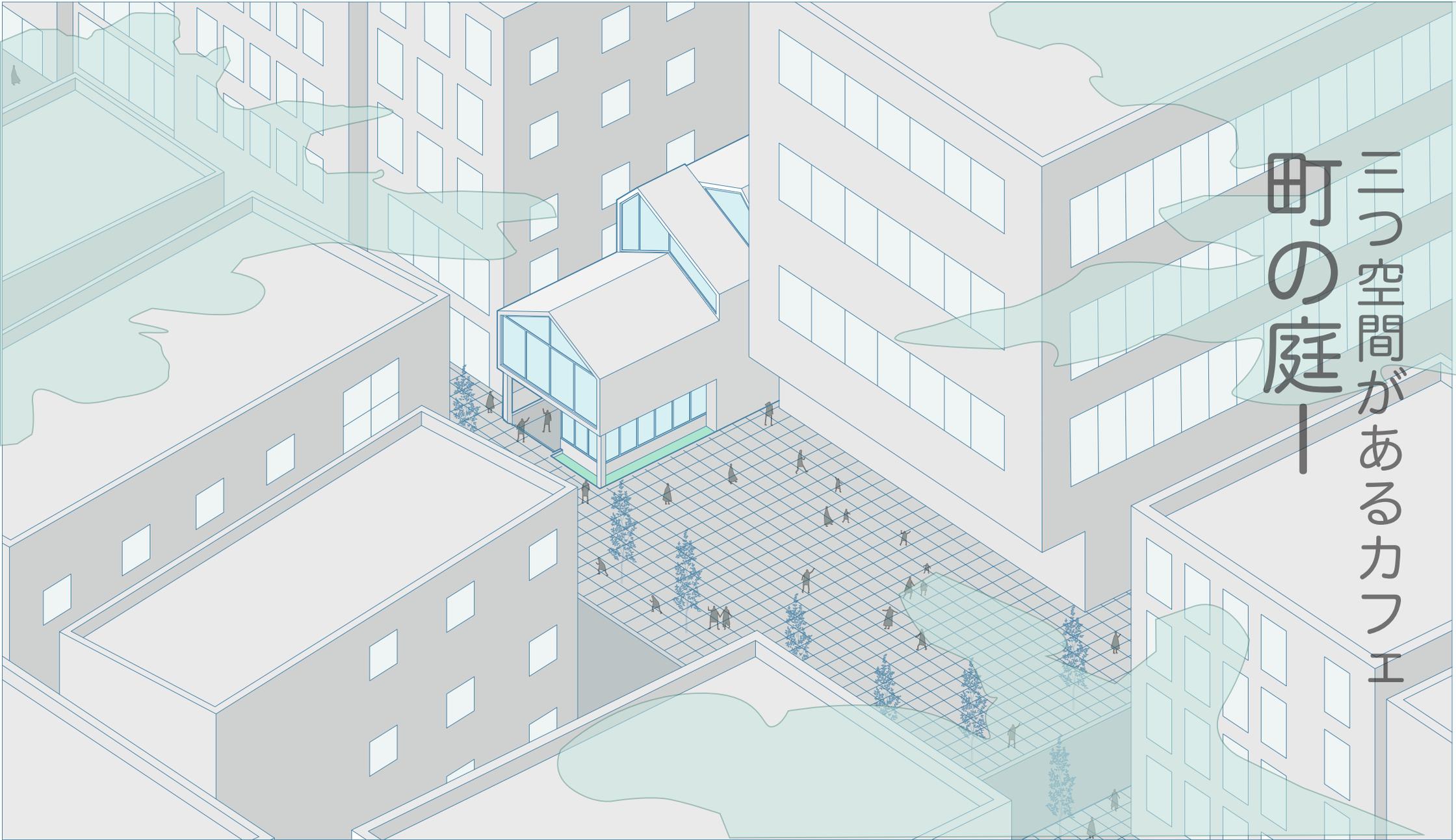


動線









三つ空間があるカフェ
町の庭



敷地面積：70 平方メートル
場所：東京・新宿・神楽坂
機能：コーヒーショップ

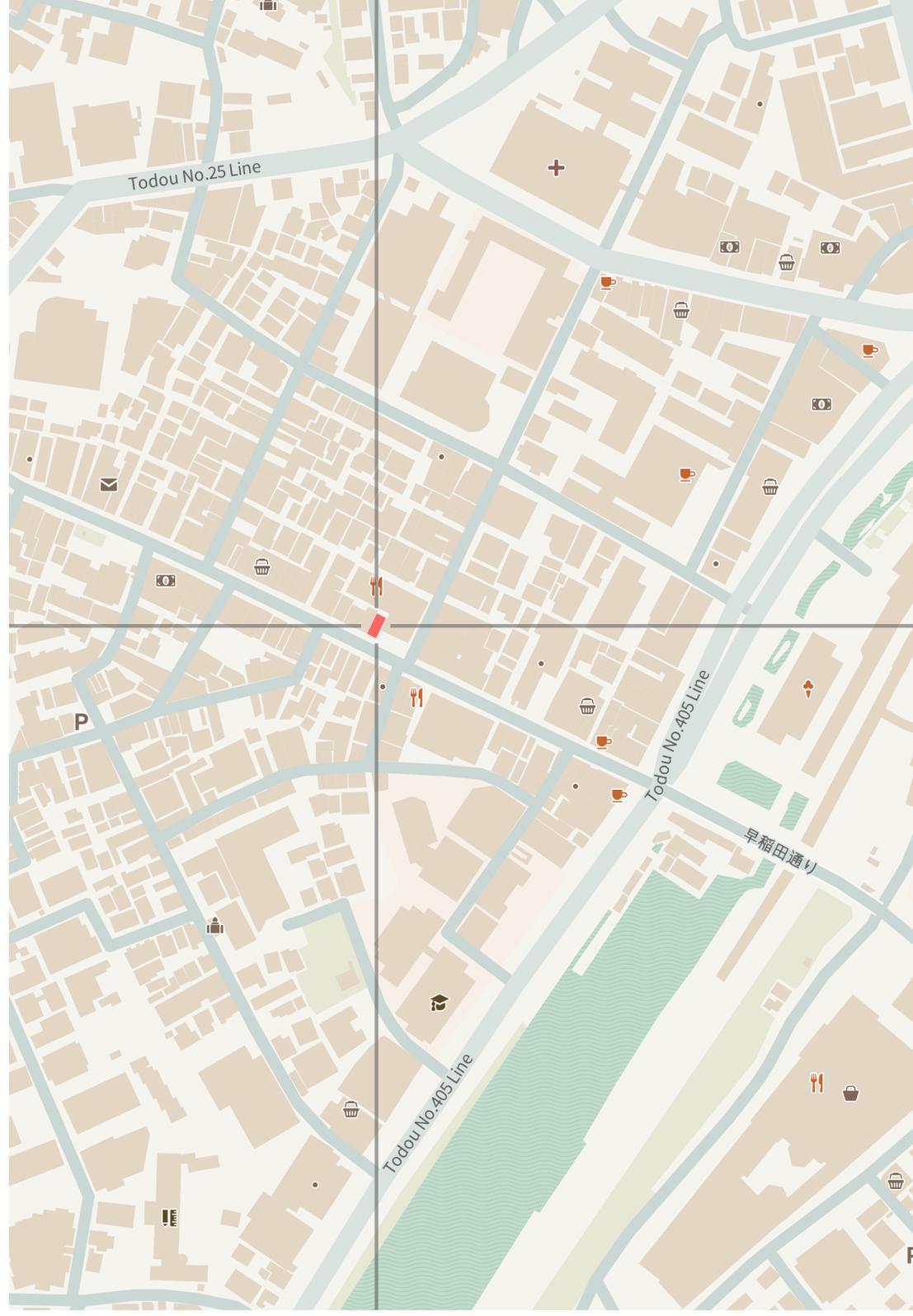
建設現場は、通りから「山手銀座」、そして現在の住宅街へと変貌を遂げた新宿の神楽坂エリアである。神楽坂の周辺には大学とフランス関連の施設が2つあり、学生や外国人が多く、毎年夏には阿波踊りや伝統文化が観光客を魅了している。建物は居住者や観光客に休憩を提供し、ユニークなデザインで古いスタイルに新しいスタイルをもたらすことを望んでいる。



目標位置の右方向約 200m に善光寺があり、毎年夏のここで阿波踊りが行われている。

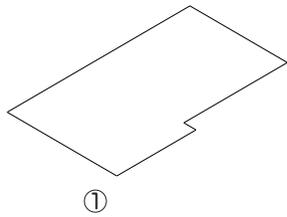


左方向 150 メートルは飯田橋駅で、駅前を通りすがりのサラリーマンが多く、東京理科大学と法政大学がここに位置した。

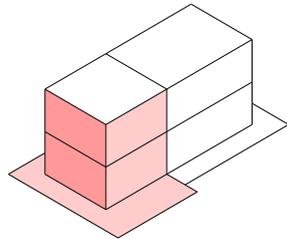




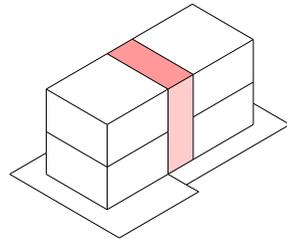
目標位置は、放棄された2階建ての細長い建物である。地形は狭く、前方は少し突出しており、街並み全体が見える。この卓越したスペースの利点を利用すると同時に、周辺の人々に向けたカフェを作ることが中心的な考え方である。



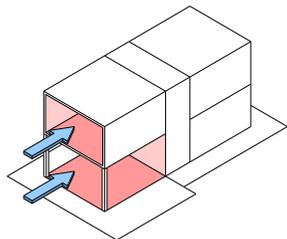
①



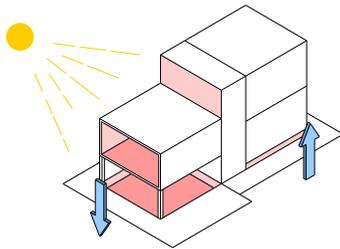
②



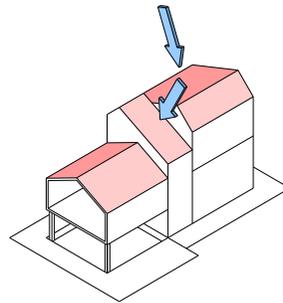
③



④



⑤



⑥

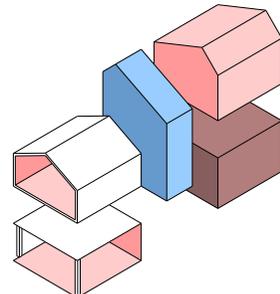
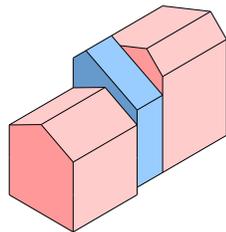
1-2: 全体的に建物の街路部分と日陰部分の境界を分割線として、2分割されている。

3: 前後のパーツ間には、それぞれのスペースブロックをつなぐための通行口が設置されている。

4: 1階の間口を押し戻してオープンスペースとなる。

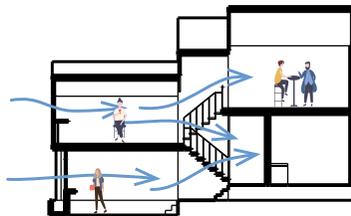
5: 自然光を最大限に取り入れるために、あえてフロントブロックとリアブロックがある程度ずれている。通りの方向に向けて窓を開ける

6: 排水と光のニーズを満たすために、建物は2つの傾斜屋根を基本形式として使用している。

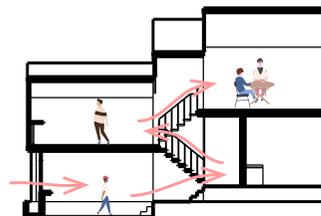


建物全体は、交通井戸として利用されるスペースで2つのブロックに分かれており、奥には縦にプライベートバーと、食事スペースが配置されており、通りの前半分は、お客さんを迎え入れるオープンスペースと観覧用のセミオープンスペースである。

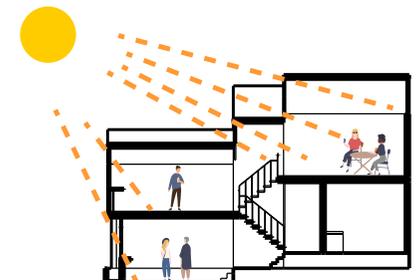
配置により、自然光と空気が空間によく流れ、同時に人々の動線がより鮮明になる。



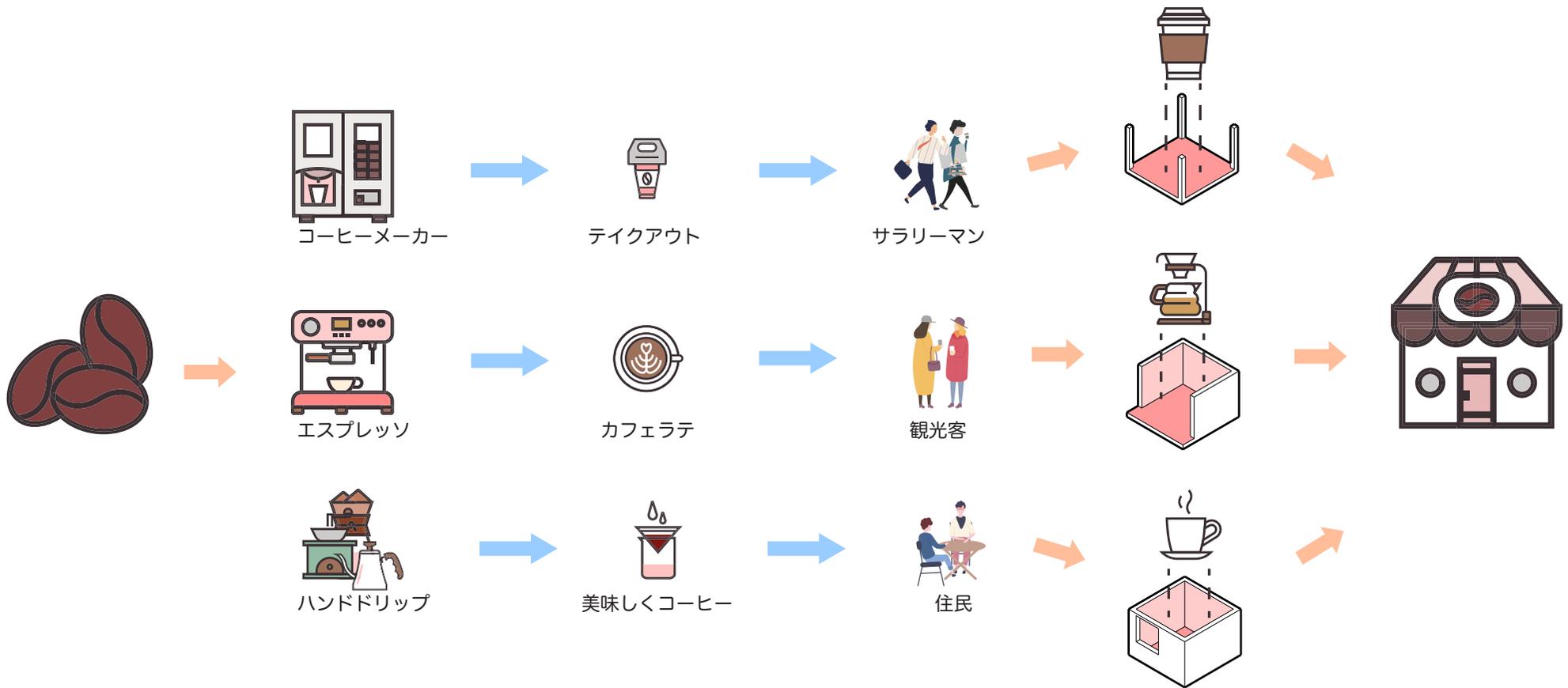
通風



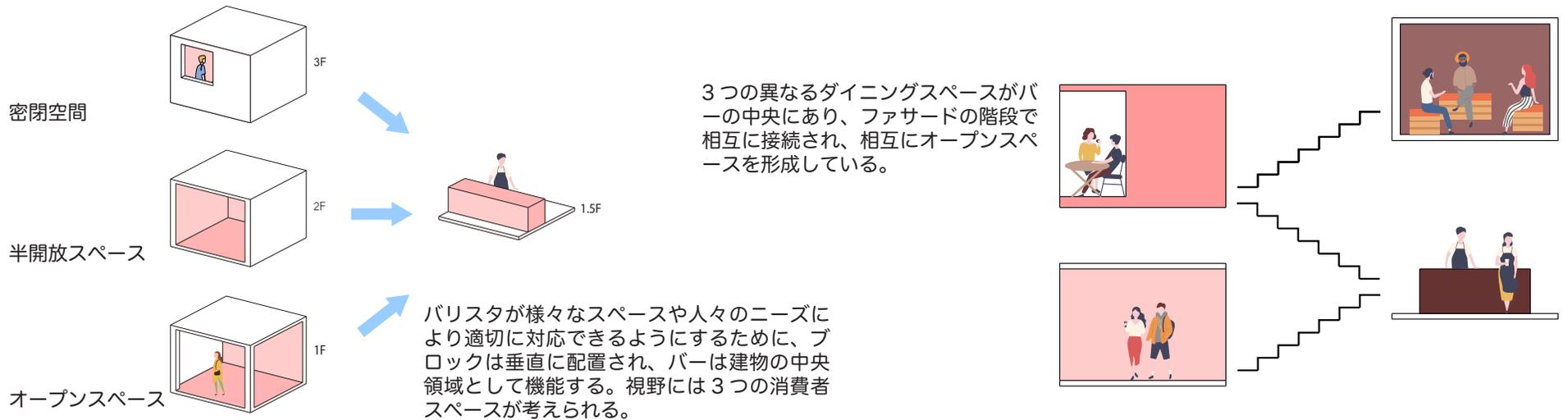
動線



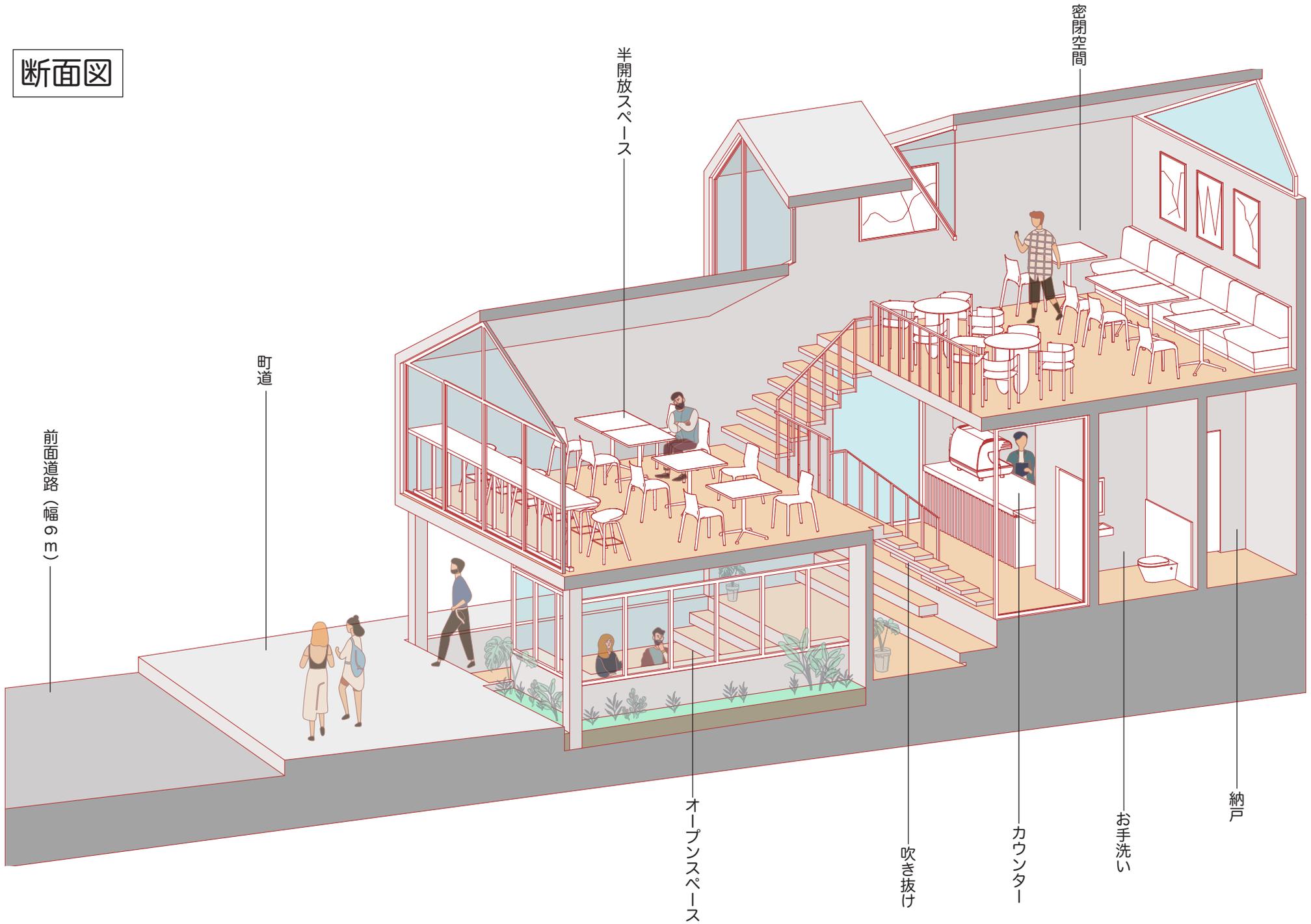
日照



コーヒーは様々な種類ともつ。様々な種類が異なる時間とスペースの要件に対応しており、消費者も異なっている。3つの主流のコーヒー消費パターンを満たすために、オープンスペース、半開放スペース、クローズドスペースの3つの空間形式がデザインされ、すべてのスペースが最終的に1つの建物に結合される。



断面図



密閉空間

半開放スペース

町道

前面道路(幅9m)

オープンスペース

吹き抜け

カウンター

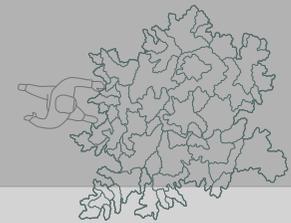
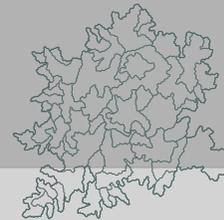
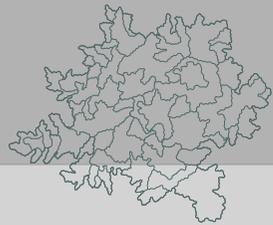
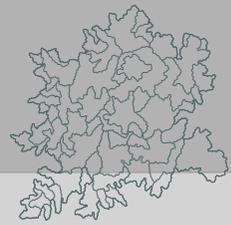
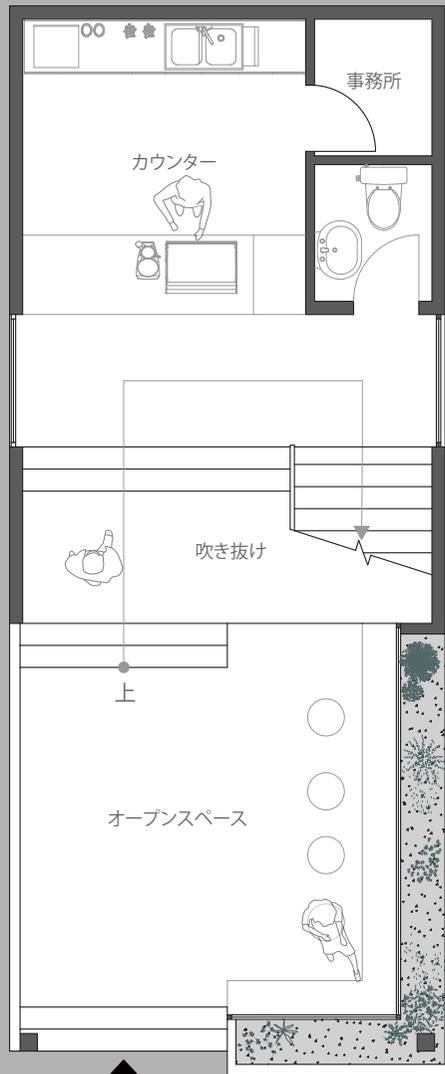
お手洗い

納戸

店舗

店舗

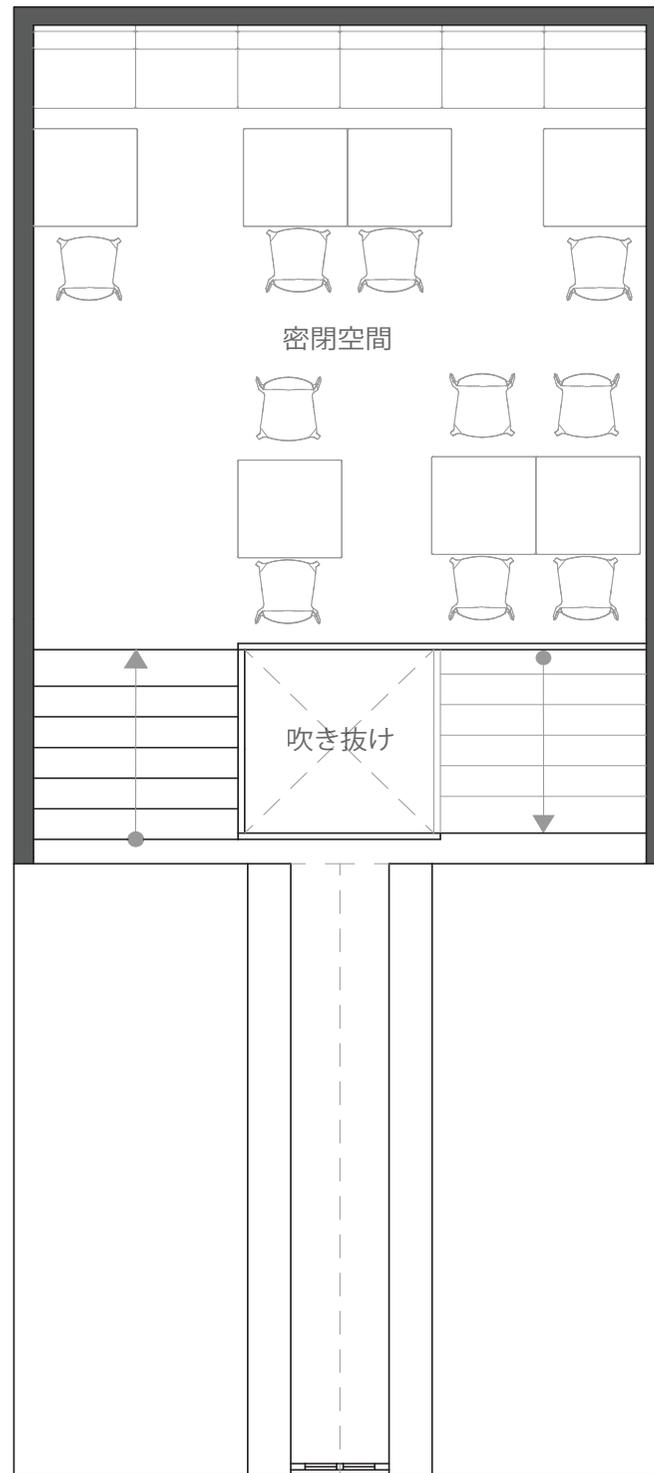
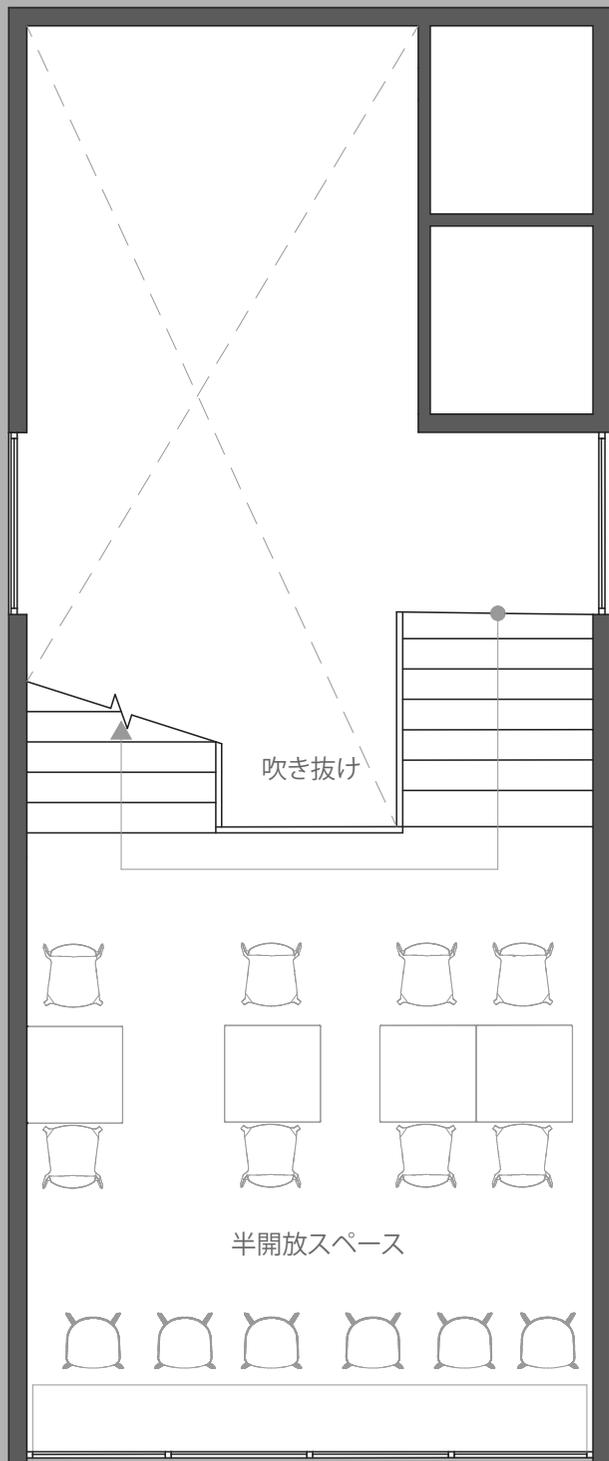
店舗



前面道路 (幅員 6 m)



配置図





主入口



3F+2F



吹き抜け